

# 漏えい点検記録簿の作成ガイド Ver. 1.1

「業務用冷凍空調機器フルオロカーボン漏えい点検・修理ガイドライン JRC GL-01」(日設連 H22. 10. 1 制定) では、漏えい点検記録簿の代表的な様式を例示しています。本ガイドは、電子データにより点検記録簿を作成する手順を記載しています。

電子データの利用に際しては、以下の事項にご注意下さい。

\*\*\*\*\*

[名称] 業務用冷凍空調機器漏えい点検記録簿  
[動作環境] 日本語 Windows XP  
EXCEL 2003  
[著作権者] 社団法人 日本冷凍空調設備工業連合会 (略称 日設連)

\*\*\*\*\*

安心してお使い頂くために：

1. CDをお使いのPCにインストールして下さい。CDは紛失しないよう管理をお願いします。
2. 同封されたパスワードを入力して下さい。
2. 提供されたCD上で、入力操作は絶対に行わないで下さい。誤操作により復元しない恐れがあります。
3. 記録簿ソフトを変更した場合プログラムの正常作動は保証されません。

例示された電子媒体による記録簿の使用に際しては、以下の注意事項を遵守頂き、ご了解頂いたものとします。

1. 提供された電子データは、使用者個人または使用者が所属する企業により漏えい点検された、業務用冷凍空調機器の漏えい点検結果の記録に供し、当該機器の履歴管理を目的としています。
2. 日設連は、例示された記録簿の内容、電子データの様式、計算式、記入データ、点検結果についてのいかなる保証、利用者または第三者が被った直接・間接のいかなる損害についても責任を負いません。
3. 記入された電子データは、使用者自ら、または使用者の所属する企業の責任により適切に管理頂くものとします。
4. 提供されたプログラムは、著作権法上の保護を受けています。いかなる方法においても使用目的以外に営利を目的としたサービスの提供を行うことは出来ません。
5. 提供された電子媒体は、利用者の事前の承諾を得ることなしに、改良のためプログラムの内容の一部または全て変更されることがあります。

[電子データによる漏えい点検記録簿の様式]

- 様式1 : 汎用版 (製品区分 一体設置形、現地施工形の何れにも適用可)  
様式2 : 簡易版一体設置形用の点検記録簿 (点検チェックリスト兼用)  
様式3 : 汎用版に対応した点検チェックリスト

## 点検記録簿 様式1の作成手順

I. 設置時・新規発行の場合： 記録簿は機器製番単位に発行する。  
(初期値の入力)

① 記録簿の適用年月日を記入  
② ユーザ情報の入力  
③ 点検事業者情報の入力  
④ 機器情報の入力  
⑤ ドロップダウンガイド情報 ①②③④⑥⑦を入力。番号は「ドロップダウンガイド」sheetに照合  
⑥ 設置時冷媒充填日時を入力  
⑦ 設置時の充填量を入力  
⑧ 設置時点検日時を入力 (西暦)  
⑨ 設置時点検情報入力 (⑤⑧⑨⑩⑪はドロップダウン)

⑤ ドロップダウンガイド情報 ①②③④⑥⑦を入力。番号は「ドロップダウンガイド」sheetに照合  
(例) ①: ①のセルをクリックし、ドロップダウン矢印▼から、該当する項目を選択する。  
管理番号を入力 (事業者個別の番号を任意に設定してください)

II. 定期漏えい点検 (漏えいの疑いを含む)  
対象機器について、前回の漏えい点検結果を記載した記録簿 様式1を準備する。  
ユーザ保管の記録簿と照合・確認する。設置時の記録簿が無い場合はIに準じて作成する。

① 点検日時を入力 (西暦)  
② 点検理由を選択  
③ 回収量を入力  
④ 再充填量 (又は補充量)  
⑤ 期間 (月) を入力  
A18セルをダブルクリック注1)  
⑥ 点検情報を入力

注1) 数式バーに  $fx =DATEDIF(AAA, BBB, "M")$  が表示されている。  
AAA に設置時点検日時セルNo. (例示ではA12) を入力  
BBB に直近の漏えい点検作業日時セルNo. (例示ではA16) を入力して (カンマ, に注意) Enter.

## 点検記録簿 様式2の作成手順

I 設置時・新規発行の場合： 記録簿は機器製番単位に発行する。

- ① 様式1-Iに準じ①～④入力
- ② 様式1-Iに従い「ドロッパ」の情報 ①②③④⑥⑦を入力
- ③ 設置時充填量を入力
- ④ 回数<sup>注2)</sup>、点検方法、監視・検知手段、漏えい有無を「ドロッパ」  
注2) 後述[補足説明事項]参照

⑤ 設置時点検情報  
を入力

様式2 冷媒漏えい点検記録簿(一件設置用) 2008年11月11日～2010年11月5日										管理番号 ABC0020		
施設所有者 経済産業ビル			施設名称 A-1			設備製造者 OOO冷凍機(株)				設置年月日 2009年11月11日		
施設所在地 〒987-5543 OOO県経済市南町1-2-3			電話番号 8765-1111			使用機器 分岐 設備型(分岐) 部品区分		型式 DAC200X		用途 監視		
運転管理責任者 伊藤 次郎			電話番号 8765-1112			型式 S4123456		検知装置 有		注		
漏えい箇所 会社名 冷凍空調設備(株)			責任者 佐藤 太郎			型式 S4123456		検知装置 有		注		
漏えい箇所 所在地 〒987-5577 OOO県経済市北町2-4-5			電話番号 7788-9901			型式 S4123456		検知装置 有		注		
使用台数 6台(うち 定期検出機(kg) 2.0)			点検期間 基準 1年			期間(月) 23		冷媒量(kg) 20.0		17.5 2.5 6.5		
年月日	点検理由	充填量(kg)	回収量(kg)	回収	点検方法	監視・検知手段	器具 種類	型式	七号 感度	点検者名	資格台帳 No.	備考
2008/11/10	定期検出機	20.0										
2008/11/11	設置時追加充填	0.0										
2008/11/11	定期検出機	20.0	17.5		最終確認済	漏れ部の検出	有			伊藤 次郎	100123	
2009/11/9	定期検出機	20.0			最終確認済	検出済	有	Axyz	3g/y	鈴木 太郎	100105	
2009/11/11	定期検出機	20.0			最終確認済	電子部(分岐) 有	有			鈴木 太郎	100105	
2010/11/5	定期検出機	20.0			最終確認済	漏れ部の検出	有			鈴木 太郎	100105	
漏えい箇所 写真(別添)			2009/11/9 漏えい箇所、追加修理 検出機部、うす付け 部にてピンホールあり 希薄液でかこ浴等 生じ 発生する原因 製造時の充填不足。 処置 再ロウ付け			漏えい箇所 写真(別添)			発生する原因 処置			

II 定期漏えい点検 (漏えいの疑いを含む)  
対象機器について、前回の漏えい点検結果を記載した記録簿 様式2 を準備する。  
ユーザ保管の記録簿と照合・確認する。設置時の記録簿が無い場合はIに準じて作成する。

① 点検日時、  
点検情報を入力

③ 再充填量(又は  
補充量)を入力

② 回収量を入力

⑤ 漏えい箇所の写真 ⑦入力 ⑧入力 ⑥入力

⑩ 管理Noを入力

⑨ 空色部は自動  
入力される。

④ 期間(月)を入力  
(入力の手順はI-⑤に準じる)

## 点検記録簿 様式3 チェックリストの作成手順

様式3は、点検記録簿 様式1に付随して作成する。

The image shows a detailed checklist form for a cold chain system. Red callouts with numbers 1 through 9 point to specific input fields and sections:

- 1 入力**: Points to the date field (2011年 6月 20日).
- 2 機器構成入力**: Points to the equipment configuration table with columns for '機器構成' and '機器番号'.
- 3 設置場所、機種、製番を入力**: Points to the '設置場所' field.
- 4 ⑫～⑯を、ドロップダウンから選択入力**: Points to the dropdown menus for '漏えい箇所' (leakage points).
- 5 システムの概略フローを図示して、漏えい箇所を×印で表示する。フロー図は、「フロー図ガイド」から選択して挿入、又はイラストを参考に作成し、挿入する。**: Points to the schematic diagram of the cold chain system.
- 6 漏えい箇所の写真**: Points to the '写真' (photo) field for the selected leakage point.
- 7 漏えいの要因、処置を入力**: Points to the '原因' (cause) and '処置' (action) fields.
- 8 入力**: Points to the '最終確認' (final check) field.
- 9 入力**: Points to the '検査番号' (inspection number) field.

### 補足説明

1. 「作業年月日」{充填量}「回収量」など、数字は全て半角で入力して下さい。
2. 「点検周期」の「基準」は製品区分 ①②にリンクして自動入力されます。
3. 「合計充填量」は、「期間」(月)(自動計算)内に充てん(補充を含む)された合計充填量になります。
4. 「合計回収量」は、「期間」(月)(自動計算)内の合計回収量になります。
5. 「合計排出量」は「合計充填量」から「合計回収量」を差し引いた値です。
6. 「排出係数」(年間相当漏えい率)は、点検期間中(月数)の年換算の排出量になります。
7. 「回数」は、漏えい点検のステップを表します。「最終」は最終確認のステップ、1回、2回・・・は、それぞれ初回、2回目・・・の点検作業になります。